

教育
相談室

カウンセラーの窓から

いろいろな人たちにまねられて今がずる

春の日差しが心地よく、三月も終わろうとしていたある日、一通のメールが届きました。

「ご無沙汰しています。中学校でお世話になったAの母です。昨日息子は、就職のために遠方に引っ越ししました。あれから高校を卒業すると大学に進んで、志望した会社に就職することができました。中学校に通えなくなった十年前は、まさかこんな日が来るなんて夢にも思いませんでした。子どもって一度沈んでもいつかは立ち直れるものなんだと思いは知らされて、とても感慨深い思いです。」

当時、学業への無力感や、人間関係などが重なり、A君は半年以上学校に通えなくなっていました。相談にみえたお母さんは、これまで感

じて来た、お父さん（夫）への不満を語りました。

「父親は、生活費を入れてくれるだけの人なんです。休日も仕事で出かけて行きます。だからATMだと思ってしまうんです。そうでもない、とともやっつけていけません。小さい頃から、ずっと私が一人で子育てをしているようなものですから。」

先のメールには、「ここに至るまでは、いろんな方たちに助けていただきました。感謝しありません。」と添えられていました。

保育園の玄関で、母親が帰ると大泣きする幼児を、しっかりと抱きしめてくれる保育士さん、遅れがちな児童を待つて話を聴いてくれる先生、そつと援助をしてくれる祖母。

な子もいること、時間がかかるかもしれないがそのうちA君らしい動きが出てくること、だから、親子で責め合わないでほしいと父親に伝えました。

意思が弱いから息子は学校に行けないのだ、これでは社会に出ても通用しないのではと悲観的だった父親も、次第に息子との関わり

子どもの周りを見渡すと、いろいろな立場の大人たちが関わり合っている成長を支えていることに、改めて気付かされます。

(T・S)

「はくみ」は、家庭のあり方についてみなさんと一緒に考えていきたいと発刊しております。子育てのヒントになればと思います。ご意見をお聞かせください。

鯖江市教育委員会教育政策・生涯学習課
TEL 5312256
〒916-1866
鯖江市西山町13-1

鯖江市子連をご存知ですか?

ジュニアリーダー
J・Lと一緒にゲームを楽しみましょう!

鯖江市子連は、「鯖江市子ども会育成連絡協議会」の略称です。市内12の小学校から推薦された5.6年生の児童が、子ども会リーダー研修の中でゲームやレクリエーションを楽しみながら、リーダーシップを培っています。

子ども会リーダー研修を修了した中・高生のジュニアリーダーズクラブのメンバーがあなたの町の子ども会で簡単に覚えらるるゲームや軽運動と一緒に楽しみながら指導します。

ジュニアリーダーズクラブ活用の申込・問合せ先
事務局 鯖江市民活動交流センター内 TEL・FAX 52-1941

はくみ

家庭教育を考えるシリーズ

発行
鯖江市教育委員会
鯖江市社会教育委員会
青少年健全育成鯖江市民会議

協力
丹南青少年愛護センター鯖丹支所

53号

人とのかかありが 子どもを育てる



『水、うまく流れるかな?』神明保育所

『赤ちゃんとのおふれあい教室』中河小学校



『たけのこ重たい! みんなでわっしょい!!』ゆたかこども園

『選手宣誓』中央中学校

「いっしょに」が子どもを強くする 自分を大切に思う気持ちを育てましょう

「自尊心」(自分を大切に思う気持ち)は、「社会的自尊心」と「基本的自尊心」の二つでできている。
(日本ウェルネススポーツ大学教授 近藤卓先生による)

「社会的自尊心」は、ほめられたり認められたりすることで熱気球のようにふくらむ、やる気を生み出す感情です。人より優れているとか、勝ったとか、人と比較することも多いのですが、時には負けることも、叱られることもあるのは当然のことです、そんなときにはしぼんでしまいます。

「社会的自尊心」がしぼんだ時も、自分を支えてくれるのが「基本的自尊心」です。ありのままの感情で、ほめられたり認められたりしなくても、誰かと「いっしょに」何かをし、「いっしょに」笑ったり、喜んだり、泣いたり、悔しがったりするなどの体験で作られていくのです。それは、和紙(体験の共有)を、糊(感情の共有)で、一枚一枚はり重ねていくようなもので、「いっしょに」体験するたびに、少しずつ、どんどん強くなっていき、しぼんでしまつことはなくなります。

人といっしょに人とかがわって

仲間と「いっしょに」
行事で 授業で 部活動で
休み時間のおしゃべりで ……
は言うまでもなく

地域でも「いっしょに」
奉仕活動で お祭りで 公園
で 登下校の通学路で ……
さまざまな人に声をかけて
もらい、かかわってもらう
たび、子どもの心に和紙が
一枚ずつ増えていきます。

家族と「いっしょに」
お風呂で 散歩で お手伝いで
食卓やお布団の中で ……
いつもあたりまえのように過
している、すべてのことが、
子どもの「自尊心」を育
っていたのですね。
大切にしたい家族の何気
ない時間。

「いっしょに」が子どもを強くする

子育て中の大人たちも同じです。熱気球をふくらませるだけでなく、和紙の部分も厚くしていきますか。
よその子と比べたり、子育て情報と比べたりして、「人と違う?」「うちの子おくれる?」「おかしい?」と、一人で不安がる必要はありません。心配は、園や学校、子育ての先輩たちに相談して共有しましょう。
そして子どもによりよい、子どもといっしょに過ごしましょう。

忙しい毎日、短いお手紙のやりとりでいいのです。
特別なイベントでなくても、身近な信頼できる人といっしょに、安心感に包まれて、親も子も、和紙のよさに強くなっています。
ありのままの自分、ありのままの親子関係でいいのです。



子どもを伸ばす知恵

涓滴

オンラインゲームにはまってしまった子どもの親からの相談話を紹介します。
オンラインは、各家庭にいても同級生とゲームをすることができるもので、友達の誘いを断れなくなります。A君はやがてゲームに熱中してしまつようになりました。母親が何度注意しても、ゲームをやめようとしません。とうとう親子喧嘩になってしまいました。
母親は、「どうしたらよいでしょうか」と、いろいろなところに相談にきました。「使いつ方のルールを決めるとよい」と聞いてきました。そこで中間・期末試験の時期に、また機嫌がよいときに、本人と「夜10時までに」「親のいるところである」という約束を決めました。親子でルールを作ったことや時間を明記したことで効果をあげたということです。
約束が守られたことを褒めたり、ゲーム以外の得意なことに関心が向かったりしたので、親子関係までよくなりました。
ゲーム依存は「やめたくてもやめられない」状態になることです。どの子でも陥る危険性があります。
ゲームにはまってしまい困っている子どもの話を聞いてみますと「家にもいない」「居場所がない」等の理由でゲーム中毒になつてしまったと言います。
「親子でルールづくり」「得意なところを伸ばす」は、ゲーム中毒をなくすだけでなく、自立した子どもにしていくヒントが隠されているように思います。
「涓滴」とは「しずく」という意味。しずくも集まればやがて大河となることの願いを込めて。

